



これにより、本年三月末迄に名簿を整理いたしましたと思います。

今後共、碩心会の運営に何卒よろしくご協力をお願い申し上げます。 以上

第102回全国大会（青森）

参加者名

（1月31日現在）  
33名

去る12月号月報でお知らせしました10月17日〜20日の全国大会参加神奈川県本部吟行会に1月31日現在で碩心会から左記の方々参加の予定です。今からでも間に合いますので御希望の方はお申し込み下さい。

根岸 岳萃	加藤 岳栢	沼田 岳雷
中村 岳郵	千葉 岳蘭	木村 松岳
宇都宮 徳風	祐野 孝風	田中 明風
松井 正風	大屋 正風	八尾 昭山
中村 岳愛	村田 潜岳	渡辺 秀岳
白井 麗岳	佐竹 扇岳	安田 聡岳
田辺 伯岳	重松 由岳	菊池 祐風
嶋津 幸風	西川 幸風	鈴木 南風
鈴木 深風	多田 秀風	高橋 之山
服部 翠山	徳本 華山	福本 香山
川瀬 慧山	石黒 恵山	海津 勝山

織田信長周辺あれこれ

中村愛岳

今年は大河ドラマで織田信長が放映されています。信長といえば、私達詩吟愛好家にとつてすぐ連想されるのは、頼山陽作の「本能寺」です。

「本能寺」は頼山陽の代表的な著書「日本樂府」の中の一編で、日本樂府は日本史の挿話に題材をとった詩六十六篇が載っていて、その中にはこれ又私達のよく知る「静御前」等もあります。歴史的ロマンスを実にきれいに描写されているといわれています。

戦国の世に覇を争う頃、信長は本能寺（京都）を本陣にあてていた。その頃、備中高松の毛利勢と対戦していた羽柴秀吉から援軍を求められ、信長は明智光秀に出陣を命じ向かわせたが、光秀は突如鞭を東に変えて本能寺を襲い、信長は防戦がなわず自殺した。

私達D班はたまたま光秀の三女「細川玉子」を勉強した。其の頃信長に可愛がられていた玉子は信長の仲介で細川忠興と結ばれた。しかし四年後の20才の時、父の謀反により、苦難の道が始まったが宗教と武道を全うした。

雪日

菅 茶山

北風雪片を吹く

乱舞して半空に漂う

沙径年きこと鏡の如し

晨霜午なれども未だ消せず

（訳 詩）

北風は粉雪（こなゆき）

乱れ飛び空に漂（ただよ）う

砂の路（みち）固きこと鉄に似て

夜明け霜 昼過ぎてまだ消えもせず

和氣藹々の初吟会

山口夕岳

平成4年1月12日(日) 例年通り碩心会の初吟会が、逗子ビーチセンターで催されました。残念な事に、予報に反して小雨が降り出しましたが、定刻には会場一杯の人達で初吟会らしい華やかさに包まれました。

千葉岳関先生の開会のことばに始まり、根岸会長の挨拶に今年も決意を新たにし、招待の副本部長安孫子岳晴先生、庶務部長鹿嶋岳久先生の御挨拶と吟に感激。又小林紫舟先生を初めとし、中村京愛先生、綾部秋香先生お三方の艶やかな祝舞にうっとり、初吟会の雰囲気盛り上りました。そして加藤岳相先生の、力強い、お目出とうございませすの乾盃の音頭で懇親会に入りました。

何しろ皆さん芸達者な人達ばかり…笑ったり、手拍子したり、見ている方も大変です。カラオケの麦畑で、松っあん役の松井正風先生の見事な変装振りとお二人、歌のお上手なのに、会場は沸き上がりました。

特別出演の安孫子先生、鹿嶋先生のプロはだしのカラオケが、錦上花を添えて下さり、宴は賑やかに進行、最後は全員で、ダンスと炭鉦節で終り、会場一杯に万歳三唱の音が響きわたり、無事初吟会はおひらきとなりました。

お当番の堀内、風早支部の方達のお骨折、本当に御苦労様でした。会場を出る頃には雨もあがり、今日一日の余韻をかみしめながら家路に向いました。

### 碩心会平成4年初吟会会計報告

会員248名 招待2名 平成4年1月12日於逗子京急ビーチセンター

収入の部			支出の部		
摘要	金額	備考	摘要	金額	備考
会費	744,000	3000×248	ビーチセンター関係	199,000	
指導者一同	25,000		会場	180,000	
祝儀	15,000	安孫子先生 鹿嶋先生	会持心	14,000	
本支部会補助	60,000		費用	5,000	
計	844,000		弁当代	375,000	
付潮洵泓野関愛部店 寄岳岳岳岳支商 品沢藤石村葉村D 現井加竹中千中堀笠	(新総伝) 清酒各1本 清酒2本 清酒3本		飲物とつまみ	196,610	
			ワッ ンジ ビ 返 T み	55,000 25,000 42,800 75,000 -2,240 -1,200 +2,250 36,000	220×250 100×250 67s+10本 300×250
平成4年1月20日 以上の通り報告いたします			賞代 加紙 筆會 場車 代ク 費代	8,000 3,000 800 15,000 762 588 5,000 4,240	安孫子鹿嶋
担当支内 堀風早部部 企副副部部 カ副副部部	上石村綾松 村川田部井 象豊游秋正 岳岳岳岳岳		余興 ア口 打合 招待 通先 信生 消費 担支 コ部		
			計	844,000	

練吟

メモ

# 対句

○そもそも、中国は文字の国だから、慶弔を問わず、なにかという「聯」といって、左右に一行ずつの文章を書いたものを、門や壁に飾りつける。それはきまって左右がなんらかの意味で対をなしている。仏事等でお寺へ行くと、本堂内陣の両側の丸柱に、よくこの「柱聯」(一米ぐらゐの細長い板の柱掛・はしらがくし)が掛けてあるのが見られる。

○対句に特にかかわりの深いのが律詩(律ともいう)であるので、ここで律詩について少々触れておきたい。律詩は一首八句より成り、一句の字数が五字または七字によって、それぞれ五言律詩・七言律詩の別があることは絶句と同じである。平仄の規則を有し、韻のみ方は第一句と偶数番目の句の末尾に踏む。また、律詩は二句ずつを合わせて一聯と称し、一・二の二句を首聯(または起聯)、三・四の二句を頷聯(または前聯)、五・六の二句を頸聯(または後聯)、七・八句の二句を尾聯(または結聯)と称する。絶句の起承転結と同様の役目を果している。律詩が、同じ

八句の古詩と全く違つところは、頷聯と頸聯とが必ずそれぞれ対句になっているという点とであり、これは原則である。従つて、八句の詩が、古詩か律詩かの区別は容易である。

○春望 (杜甫)

(首聯略す)

感時花賤淚	頷聯	對句	感時	花賤	淚
恨別鳥驚心	頷聯	對句	恨別	鳥驚	心
烽火連三月	頸聯	對句	烽火	連三月	
家書抵萬金	頸聯	對句	家書	抵萬金	

(尾聯略す)

對句であるかどうかは、右の例題で分るよう、詩句の構成上からも、また、吟詠してその流れからも了解できる。例えば紅と緑(色彩)、風と雨(氣象)、松と竹(植物)、万里と千歲(數量)のような名詞だけでなく、笑うと泣く、聴くに看るなど、動詞であっても一見して對句であることが判別できる。

○對句の良し悪しは律詩の生命である。殊に中国人は、對句に對しては特異の才能(國民性と言つてもいい)があり素晴らしい。なお對句は、律詩だけでなく、十二句(十句もあり)以上の長い排律も同様、對句で成立しているし、時には絶句にも使われている。

# 節分

二月三日は節分。節分とは本来、季節の分れるとき、という意味で、立春、立夏、立秋、立冬に移る時のすべてを指していたというが、現在は春の前夜だけをいう。豆を撒いて災難を追放し、招福を祈るといわれ、もともとは中国で行われていたものが、江戸時代になつて民間に広まったという。ちなみに鬼を追ひ払うのに豆を用いるのは豆が魔目、魔滅に通じるところからといわれている。

(入会)

- 635 酒井和子 葉山町堀内一七四〇
- (若葉) 電〇四六八一七五―二七七三
- 636 米沢亨 葉山町下山口一五四〇―一七
- (下山口) 電〇四六八一七五―〇九三〇
- 637 鈴木さよ子 葉山町堀内三三三
- (堀内・F) 電〇四六八一七五―三四八六
- 638 角田久美子 葉山町堀内二二七九
- (堀内・F) 電〇四六八一七五―二五二九
- 639 水留祐子 葉山町堀内一〇四六
- (堀内・F) 電〇四六八一七五―〇八二〇
- (退会)
- 66 鈴木梢風(沼間) 521山地律泉(死)(堀内・E)